



# わが社のインターンシップ

——インターンシップ委員会から——

## 1. 富士フイルム株式会社におけるインターンシップの紹介

当社の化学工学会インターンシップは、8月中旬から3週間ほどの日程でおこなわれています。研修先はR&D統括本部 生産技術センターで、化学工学的テーマの実験を主におこなっています。研修期間中は、研修生は社員と同じ職場に席を置き、毎朝の安全ミーティングにも参加します。研修の最後には成果発表会をおこないます。研修生の指導教員、化学工学会事務局、および社内関係者が出席し、プレゼンテーションと質疑・意見交換をおこないます。短期間に一つのテーマを仕上げるのは大変ですが、学生さんには達成感を感じてもらっており、また大学での研究活動にも活かしてもらっています。

研修生には、若手技術者の指導員が1名つき、さらに実験にあたりアシスタントが1~2名つきます。研修テーマは、以下の点に重点をおきながら、若手指導員と上長が議論して、毎回オリジナルテーマを立案しています。

- ・安全が確保できる実験内容であること
- ・会社における技術者の業務がイメージできる実務的テーマであること
- ・研修期間中に実験の企画～実験の実施～結果の考察～報告書の作成までやりきること

研修生はまず指導員から生活や安全上の注意事項、テーマの背景・目的とおおまかなシナリオおよび実験室・実験装置の使用法などの説明を受けます。説明が終わるといよいよ研修本番です。まず、テーマに関する予備知識の学習や事前調査から始まります。指導員から予め資料を渡しますが、それだけでは不足の場合が多く、さらに文献調査をしてもらいます。事前調査が終わりますと、実験結果のグラフをイメージしながらの実験企画をおこないます。実験に必要な器具や材料なども考えます。指導員の理解が得ら



Yukihiko KATAI(正会員・上席化学工学技士)  
1988年 京都大学大学院工学研究科化学工学専攻修士課程修了  
現在 富士フイルム(株) R&D統括本部 生産技術センター 研究マネージャー  
連絡先：〒250-0193 神奈川県南足柄市中沼210  
E-mail yukihiko.katai@fujifilm.com

れたら実験開始です。実験器具や材料は予め指導員が準備していますが、実験企画や実験実施の段階で新たなアイデアが出る場合も多く、その場合は手配に走り回るようになります。そのような生々しい様子を見てもらえるのもインターンシップならではのことだと思います。実験が始まると、指導員やアシスタントだけでなく、実験室や測定装置などを共用する他の社員とのやりとりも必要になります。測定装置の使用予約の交渉もできるだけ研修生本人にやってもらいます。実験は、いろいろな問題により計画通りに進まないことが多く、研修生も指導員も正念場を迎えます。様々な工夫と頑張りにより結果をまとめ、結論へと導きます。最後は、発表資料の作成です。発表は5分~10分ほどですが、指導員の指導のもとで資料作成、プレゼンテーションの練習をおこない、成果発表会に臨みます。成果発表会では、プレゼン内容に関する質疑や討論がおこなわれます。また、研修期間中は、仕事以外でも懇親会や夏祭りなどの社内イベントにも可能な限り参加してもらっています。若手社員の本音を聞いてもらうことも会社を知ってもらう上で大切なことと位置付けています。

## 2. インターンシップ受け入れ企業としての感想

当社では、インターンシップは学生と企業が相互に良く知り合うことができる、貴重な機会になっています。特に化学工学会ではインターンシップの募集はオープンですので、企業にとっても学生にとっても選択の範囲が広いことが特徴です。また、インターンシップ期間中の企業と学生の交流により、生々しい仕事の様子を肌で感じてもらうことができ、お互いに理解を深める絶好の機会になっていると思います。なお、今後インターンシップをさらに有意義にして行くためには、企業と学生さんの情報交換に加えて、企業と大学の指導教員との情報交換を深められたいだろうか、と思います。現状では、指導教員との情報交換は成果発表会のわずかな時間か懇親会の場しかありません。もっと、指導教員とも情報交換をおこない、インターンシップの理解を深めてもらいたいと思います。学生インターンシップは企業の負荷は少なくはありませんが、企業の若手指導員の成長にもつながっている感触を持っており、今後も継続してゆく方針です。多数の学生さんの参加をお待ちしております。